

ぜん ぎょう じ
善巧寺報

10 月号

月刊●善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660 榎本明覚

▼二〇二二年十月一日▲

●芭蕉野分して盃に雨を聞く夜哉
松尾芭蕉。延宝九（1681）年の吟。前年、門人の杉風に建物を譲られ、当年年初に李下に贈られて芭蕉を植えて、深川の《芭蕉庵》が開かれた。「野分」（台風）を迎えての作句。ただし、写真の芭蕉の「花」は、夏季。令和元（2019）年六月、京都大津の義仲寺で撮ったもの。



季節の花

～ 芭蕉の花 ～



善巧寺 報恩講

首都圏の感染者数は減少傾向ですが、まだ第六波の懸念がある現状であります。前年同様、時間を短縮、導師と助音にて行います。三密回避のため申し訳ございませんが、定員を二〇名(※先着順)とさせて頂き、マスク着用でのご参拝をお願いいたします。お齋接待も中止とさせて頂きます。ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。



十月十七日(日)

十一時 法要 (於本堂) 『正信念仏偈』

ひきつづきご法話

「ありがとう・報恩の力」

善巧寺 住職 榎本 明覚

十二時 終了



※出欠の有無を同封のハガキにご記入頂き、十月十一日(月)までにご返信賜りたくよろしくお願い申し上げます。

◎みほとけ会では、ZOOMミーティングご法話会を行っております。ミーティングルームの作り方、参加者招待の仕方などはスムーズに出来るようになりましたが、新機能までは、ちよっと手が出せません。現在、深川倫雄和上の『仏力を談ず』の読書会として浄土真宗の肝要を頂いております。参加希望の方は、

jettidget@gmail.com

までメールをお送りください。開催当日午後七時までに招待メールをご返信いたします。毎月第一・第三木曜日午後八時〜開催しております。

◎写真は、善巧寺のご本尊・真横からの阿弥陀さまです。少し前に傾いておられるのは建付けが悪いわけではなく、仏さまの方から私たちに逢いに来て下さっているという「摂め取って捨てない」大悲を御姿で表しているのです。

定例法座

毎 月 十 一 日

◎十月十一日(月)午後二時

～三時

於 法輪会館

「仏教の考え方」

簡潔に言えば「当たり前」の事を当たり前に見る」のが仏教の考え方です。

しかしこれがなかなか難しい。私たちは各自の経験体験に基づいて物事を観てしまいます。これを色眼鏡とよく喩えられますが、私たちは日々せ

つせと経験体験という名の色眼鏡づくりに励んでいると言ってもよいかもしれません。問題は、自分の心が造り上げてきた色眼鏡が真実間違えなしと凝り固まってしまいう事で、そうな

ると、実際には白い世界であつても赤く、あるいは青く映つてしまうというわけです。最終的には「白いわけないだろう、これは赤いんだ」と頑固を押し通し、他者と衝突する事になります。

①正しく物事を観よ、②それに基づいて正しく考えをめぐらせて、③正しい表現(言葉)を用いよ、④正しい行いをし、⑤正しい生活をおくり、⑥正しく努め励んで、⑦正しく心を整え落ちついて⑧心乱れぬ正しい精神集中をせよ」この八つの正しい道(八正道)を歩めとお釈迦様は説かれましたが、皆様はいかがでしょうか？恥ずかしなから住職は正しく心乱される事がし

よつちゆうの毎日であります。八正道に照らしてこの原因を遡れば「正しく物事を観ていない」ことが根幹にあるからでしょう。

しかしながら、そのような者を決して見捨てぬという「阿弥陀(限りなし)」という名前となつて下さった仏さまがいらっしゃいまして、そのようなお前だからこそ見捨てられぬと立ち上がって下さいました。頑なだった心がほどけると、今までとはまた違った景色が見えてくるのではないでしょう。今回は、養老孟子先生の公演ビデオを観つつ「正しい物の見方」を味わってみましょう。